

学校名	新座市立第三中学校
実施日	令和5年1月20日

<記入の仕方> ○「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。  
 ○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、各教科において「授業の見える化」を図り、生徒の意識的に学ぶ姿勢を向上させるような取り組みを実践している。	A	昨年の本評価3.41から今年は3.63(+0.22)と上昇。 2学期より、授業で「学びの共同体」を導入し、生徒間の関わり方が大きく変化した。コミュニケーションすることでより深く課題に迫ることができている。中間層～下位層の生徒に対して、「ジャンプの課題」によって「できた」「わかった」経験を積ませている。	A	「学びの共同体」の導入により、「誰一人として独りにしない教育」へと近づいている。生徒間のコミュニケーション力は元々非認知能力として高い数値で推移していたが、学び合いをさせることにより、三中のよさがより特徴的に発揮されつつある。生徒がどの授業、どの内容でも笑顔で前向きに取り組んでいる。
2	学校は、体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を適切に行っている。	A	昨年の本評価3.41から今年は3.56と+0.15。 ウィズコロナの観点から、体育祭の全校・7色対抗での実施、合唱祭の先輩学年の鑑賞と3学年保護者の鑑賞、50周年・ふれあいフェスティバルで生徒・保護者・地域の団結力が限定的ながら復活できた。生徒主導の自発的な学習や行事の取り組みが随所に見られた。	A	体育祭を3色から7色縦割りにマイナーチェンジし、リーダーを発掘し全校的な盛り上がりのある活動となった。合唱祭、修学旅行、スキー教室、生徒会主催の各行事も自主的・自発的に全校生徒を動かす生徒の力が十二分に発揮されている。コロナ禍ならではの工夫があった。
3	学校は、視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。	A	昨年の本評価3.73から今年は3.81と+0.08の上昇となった。 一人一台のタブレットを最大限に駆使し、各教科でフル活用で教材を全教職員が作成し工夫している。生徒が自発的に教材を作成する事例もあり、技能の高低はあるものの効果的に活用できている。不登校生徒もオンライン授業を受ける体制が整っている。	A	元々、ICTをよく活用している状況だが、タブレット端末を連絡事項にとどまらず生徒自身が教材を作ったりコミュニケーションツールとして活用することが当たり前になり、学習意欲や理解の向上に直結している。校務用PCの更新やタブレット破損修理が課題である。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	昨年の本評価3.19から変わらず。 学校教育目標具現化のため、組織的に学校経営を進めようとしており、ICTをできるだけ活用して負担軽減を図っているが、まだまだ校務分掌の偏りが発生している。企画委員会・管理職との情報の流れをスムーズにしなければならない。	B	組織的な学校経営が遂行されているが、校務の整理や偏りを是正し、正しい情報を周知・共有できるよう改善してほしい。新しい時代に対応した校務分掌の組織編成により、負担軽減しながら新しいアイデアが積極的に生かせるようにする。マニュアルをフローチャート化し、現場に即した形にするのも一考。より働きやすく、教職を長く続けられ、質の向上につながり、教職としての矜持が生まれるのではないかと。新しい学びを推進するに当たっては、過渡期ともいえる状況で、校務分掌の見直しを常に進め、負担軽減を確実に実施してもらいたい。チーム学校として一人一人が三中教育を推進する大切な人材である。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	昨年の本評価3.32から今年は3.19と-0.13となった。 学校評価や分掌部会の具体的記述を次年度に生かすように各部会では反省を活かした計画を作成して年度をまたぐこととしている。次年度への引継ぎを明確にする体制を整えていきたい。	B	学校評価、行事ごとの評価から具体的な改善点をよく分析し、よりよく改善しようとしているが、一部で情報共ができていなかったことは問題。PDCAサイクルを実践的に回し、確実に引き継ぐことが重要である。全体的には年々良くなり、しっかり引継ぎされている。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	昨年の本評価3.22から今年は3.25と+0.03。 危機管理マニュアルを年度当初に確認したり、加筆訂正を共有したりしているが、いかに当事者意識を高めるかが重要である。警備の誤発報やカギの不明がまだ多い。ヒヤリ・ハット事案を日報で紹介し、事故撲滅の意識をさらに高めたい。	B	危機管理マニュアルの確認は、問題点が明確になっているので具体的な改善を期待する。不審者を想定した訓練を実践的に進めてもらいたい。小さな気づきやひと手間、目配りを安心・安全という当たり前の確保を当事者意識を持って進めてほしい。

## 評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	昨年の本評価3.54から今年は3.63と+0.09上昇。 授業四原則「姿勢・清潔・礼・整頓」に加えて、「ただ聴いているようで理解していない」状況を打破するため「学びの共同体」に合致した話し合いのルールを全学級で共有し、賑やかだが集中して理解が深まる授業となっている。	A	「学びの共同体」導入により、「ただ聴いているようで理解していない」状況を打破しつつある。静かだまじめなようだが授業に参加できていない生徒が激減したようで、授業の本質に迫りつつある。さらに研究を深め、三中にマッチしたスタイルを確立してほしい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	A	昨年の本評価3.35から今年は3.66と+0.31の大幅アップ。B⇒A 「学びの共同体」の研究が進むにつれて、話し合い活動や協働型学習に生徒が慣れてきて、相手の考えを取り入れた上で自分の考えを構築し発信する授業が展開されてきている。	A	自分の考えや意見を発信することができ、誰一人として独りにすることのない活発な授業が展開されている。大幅アップは先生方の日頃の研究や努力が現れている。「学びの共同体」は思考力・判断力・表現力の向上が期待できる。生徒一人一人の力が伸びるようさらに工夫してほしい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	昨年の本評価3.46から今年は3.34と-0.12、A⇒B。 生徒アンケート「授業の内容はよくわかる」昨年の3.27から3.22と微減の中、「学びの共同体」実施の効果が出るには時間がかかる分析である。研究の指導者には、中間～下位層の生徒への丁寧なケアは手厚いという評価を受けている。	B	中間～下位層の生徒たちの底上げが全体の学力アップにつながると思われるため、ケアの方法やタイミングを研究してほしい。評価は下がっているが、先生方の問題・課題意識の高まりがゆえと窺える。と捉え、今後に期待する。合理的配慮への対応等、丁寧な指導をしている。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	A	昨年の本評価3.24から今年は3.50と+0.26、B⇒A。 1学年からのオールイングリッシュ授業や、英語科教員を中心に英語にふれる教育活動を日常的に展開している。埼玉県学力学習状況調査の英語の「伸び」は4年度も県平均を上回っている。フィンランドとの交流会でも、多くの生徒が英語でコミュニケーションをとっていた。	A	英語力の重要性に加え、グローバルな視点を養うことも大切である。英語科だけでなく国際理解教育の推進が重要である。フィンランドとの交流会は前向きで改めた内容になっていて、先生方の努力と工夫に生徒もよくついてきていると感じる。伸びが県平均を大幅に上回ることは、向上心の現れである。

## 評価項目「豊かな心の育成」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	A	昨年の本評価3.30から今年は3.47と+0.17、B⇒A。 今年度も教職員、生徒、保護者が「三中のあいさつはよい」という高い評価をしている。生徒アンケート「友達、先生方、お客様にあいさつをしている」が3.62と高いが、家庭・地域でのあいさつは3.30と、生徒は課題を自覚している。	A	保護者アンケートでも少し良くなっているとおり、来校者へのあいさつは非常に気持ちの良いものであるが、一部保護者からはあいさつが少ないという意見もある。生徒の家庭・地域での評価が低く、自覚しているということは意識が高いということであるから、改善の方策を生徒発信で実施してもらいたい。多くの生徒は心からあいさつできていると感じる。生徒会の「あいさつバッジ」の効果は地域内では高いので、常に周りの大人が意識し、相乗効果を期待したい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	昨年の本評価3.49から今年は3.47と-0.02。 「いじめはどの学校にも起こる」「教員のいないところでしか起きない」認識で早期発見、早期解決につながっている。当事者からの訴えよりも周囲の生徒が心配して発見に至る事例が多い。不登校生徒数が依然として多い。SC、SW、さわやか相談室が効果的に運用され、外部機関との連携を密にし、教育相談が機能するよう改善していく。	A	「いじめはどの学校でも起きる」「教員のいないところでしか起きない」という考えのもと、早期発見できている。反面、保護者と教員の意識の差がみられるので、不安や不満を募らせることがないよう密な連絡を心がけてほしい。生活の中でのちょっとした行動を見逃さず、褒めることで心の余裕が出てくる。不登校を少しでも改善できるよう、相談体制をさらに充実させてほしい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	A	昨年の本評価3.19から今年は3.50と+0.31、B⇒A、一昨年の3.49の水準に戻った。 生徒アンケート「規則を守っている」が3.80と高く、学校教育目標を意識し、規範意識を高く持ち学校生活を送っている。 教師の言葉遣いについて、「自ら手本となって」をより意識すべきである。	A	教員の言葉や態度に対する意見は良くなっているようだが、気がつく度にお互いに注意・声かけができるとさらに良くなる。生徒指導中も強い言葉があれば別の教員が指摘しその場で軌道修正するくらいの意識が必要。引き続き生徒と教師の信頼関係を構築し、「自ら手本となって」を強く意識し、言葉に十分な配慮を持って指導してもらいたい。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	昨年の本評価3.51から今年は3.63と+0.12。埼玉県や本校の体力の課題を意識し、活動量が高く、かつ規律正しく体育授業を実施し、昼休みの校庭遊びが非常に活発である。制限がある中でも部活動が盛んで、今年も県、関東、全国へと駒を進めている。	A	多くの来校者が「昼休み、よく遊んでいますね」と言うほど活動できていることは、当たり前でなかなか難しいことなのかも知れない。部活動の取組、体力向上の工夫、生涯スポーツへのつながりなど、授業、休み時間、部活それぞれが目的意識を持って楽しんで体を動かさせている。毎年Aで充実していることが窺えるが、運動が苦手な生徒への働きかけを工夫してほしい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	昨年の本評価3.76から今年は3.66と-0.10。給食だより(食育infomation)、給食ができるまで動画、SDGs、地産地消、食品ロス減少、地方食材の無償提供等の取組を今年も年間を通して実施した。給食を完食する意識が全学年で高く、毎日の喫食率が高い。	A	よく取り組んでいる。保護者にもっとうまく伝わるとさらに良い。喫食率が非常に高く、100%の日もあるなど取組が成果を上げているが、無理して完食する場面もあるようで、熱意が過ぎないようにしてほしい。「食育インフォメーション」の放送は生徒への啓発となっている。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	昨年の本評価3.35から今年は3.41と+0.06、B⇒A。ウィズコロナの観点から、学校行事・学校公開の条件を緩和でき、一定の制限の中ではあるが体育祭、合唱祭、学校公開、、バザー、ふれあいフェスティバル等が開催できた。学校HPの動画掲載も高頻度で、生徒の活躍を毎日のように発信できた。今後も三中校区ふれあい連絡協議会を中心に町内会、学区内小学校、高校との連携を工夫し、地域の中心としての機能を可能な範囲で維持していく。	A	コロナ禍ながら学校・地域の工夫と努力で体育祭、合唱祭、学校公開、バザー、クリーン作戦、50周年記念式典、ふれあいフェスティバルが開催できた。今後も保護者・地域の意見を取り入れ、適切に対応することを可能な範囲で持続することが重要である。「開かれた学校であること」が、地域との交流行事を実施する中で生徒の活動のようす、先生方の協力的な態度でよくわかる。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	昨年の本評価3.73から今年は3.84と+0.11、高い評価を維持している。学校だより、学年通信、学級通信を各担任ともタイムリーに発行し、教育活動の周知に努めている。保護者の来校が制限されているが、学校HPの更新はほぼ毎日で、今年も閲覧数で常時トップ3を維持している。学校からのお知らせ、スクールメール、HPを連携させ、相互に情報が閲覧できる状況にある。	A	「学校ブログ」はタイムリー時更新され、保護者としては学校生活の様子がわかりやすく、ありがたく思う。学校教育の情報発信を受け取ることは大きな楽しみであり、しっかり見て生徒の生朝、学校のねらい、自分たち地域の役割を結びつけて考え、応援していこうと思う。日忙しい中ではあるが、是非継続してほしい。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	昨年の本評価3.41から今年は3.41と同等。学校応援団活動について、あいさつ、グリーン、体育祭、図書、フェスティバル、バザーについてPTAボランティア委員会が中心となり保護者の参加を得られた。	A	コロナ禍以降、徐々に活動が復活してきている。時代に合わせた活躍を期待する。保護者・地域と連携して学校のために活動できている。さらに内容の充実を図り、生徒たちの意識の底上げ、保護者・地域の生徒の見方を変化させ、さらに根を張った活動になるよう期待する。